

協力・笑顔・最高にパワフルな発表を！！ 沼田小学校で学習発表会 10/18

10月18日（土）、沼田小学校（藤森正男校長）で「協力・笑顔・最高にパワフルな発表を！！」をテーマに学習発表会が開催されました。

会場の体育館には保護者をはじめ家族の皆さんが大勢つめかけ、1年生による「はじめのことば」として「今日の僕たちはいつもと違います。いろいろなモノに変身します。思いっきり頑張っって皆のハートを狙い撃ち！！上手くできたら拍手をお願いします。」と挨拶があり学習発表会が始まりました。各学年や複数学年で練習してきた合唱や演奏、表現豊かな劇、オリジナルのよさこいソーランなど学習の成果が発表されると、会場からは大きな拍手や歓声が起こっていました。



▲踊ったり、跳んだり、演じたり、素晴らしい発表会でした

地域と一緒に発展を

沼田分屯地・沼田弾薬支処創立24周年記念 10/18

陸上自衛隊沼田分屯地・沼田弾薬支処創立24周年記念祝賀会が10月18日（土）、ほろしん温泉ほたる館で行われました。

沼田町自衛隊協力会と陸上自衛隊沼田分屯地の共催で開催され、沼田町自衛隊協力会会長である金平町長からは「夜高あんどん祭りを始め各種行事等には町民と一緒にあって、ご協力をいただいている。町にとってなくてはならない存在」と挨拶があり、陸上自衛隊沼田分屯地の有澤司令からも「引き続き町民の皆さんの協力が必要、より一層の発展をしていきたい」と挨拶がありました。



▲挨拶をする有澤司令

姉妹提携都市 ポートハーディ派遣団出発式 10/11



▲出発式後の訪問団

10月11日（土）、ポートハーディ派遣団が、沼田町を出発しました。

今回の派遣は派遣団員7名と通訳随行4名の11名で、期間は10月11日から18日までの6泊8日です。出発式では関係団体の代表者や家族が集まるなか金平町長から「皆さんの仕事はカナダで友人を作ること。いい交流をしてきてください。」と激励の挨拶があり、派遣団長の生沼教育長からは「多くの皆さんのご支援をいただき準備を進めてきました。団員一人ひとりが自覚をもってまちの代表として交流と学習に取り組みます。」と挨拶がありました。

この後、派遣団員の皆さんは町のバスに乗り千歳から羽田、成田経由でカナダへ向かいました。

地域提案型まちづくり事業

旭町子どもイベント 10/12



▲災害を想定した屋外炊飯を行いました

10月12日（日）、旭町コミュニティセンターで旭町西、東町内会が合同で「旭町子どもイベント」を開催しました。

この事業は、地域の活性化を図り、又は地域の特色を活かす事業等に対して町が助成を行う「沼田町地域提案型まちづくり事業」として旭町町内会が主催し、実施されたものです。

この日は日赤奉仕団の皆さんのご協力の中、災害時の食料確保の調理方法の実践として野外炊飯を行い、今年の新米のお米でカレーの昼食を作ったり、魚釣りや川エビ取りを行い、集まった約20名の子どもたちは初めての体験に興味深く取り組んでいました。

教育委員辞令交付

青木健治さんに辞令交付 10/17

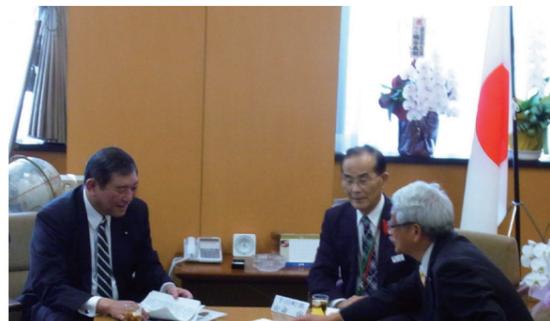


▲交付を受ける青木さん

10月17日（金）、町長室において青木健治さんへの教育委員辞令交付が行われました。

青木さんには平成23年から教育委員として町の教育推進にご尽力いただいております。今回再任され任期は4年間です。町長からは「教育委員会の制度改正もあり、いろいろと大変な面もあると思いますが、教育行政推進のために力を発揮していただきたい。」と挨拶がありました。

人口減少 STOP 石破地方創生担当大臣と懇談 10/29



▲石破大臣に説明する金平町長(上)と人口減少STOP緊急連絡会議(下)の様子

10月29日(水)、国が「地域活性化モデルケース」として選定している「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想」に対して、有識者や関係府省庁からアドバイスを行うための会合が東京都で開かれました。またその後、金平町長の他モデルケースになっている全国9自治体の市町村長から、地方創生に対する課題等を話し合うため、石破茂地方創生担当大臣との懇談会が行われました。

懇談で金平町長から、当町の取り組みを紹介したのに対し、石破大臣は「消滅可能性都市をなくすために、地方での仕事の創出が重要。政府をあげて支援していくので、地方のアイデアを出してもらいたい」と話されました。

町では職員でつくる「人口減少STOP緊急連絡会議」を立ち上げて検討を始めており、出生率の上昇や移住・交流人口の増加、暮らしやすさの向上などの施策について論議を重ねています。今後も引き続き、町民の皆さんのご意見を伺いながら、安心して暮らし続けるための新たなまちづくりを検討します。

開拓120年記念事業 沼田町農産物海外販路拡大シンポジウム 10/30

10月30日(木)、ほろしん温泉ほたる館で沼田町農産物海外販路拡大シンポジウム(同実行委員会主催)が開催されました。

シンポジウムは第1部に沼田町出身で(株)三井物産戦略研究所会長の寺島実郎氏が「世界史の視界から考えるふるさと北海道～沼田町120年への視座～」と題し記念公演を行い、第2部では高橋定敏留萌市長ら4氏によるパネルディスカッションが行われました。

講演会で寺島氏は、高校生まで過ごした北海道での生活に触れ、将来の人口推移の見込や、海外や極東ロシアでの物流の動きなどについて講演されました。

その後のパネルディスカッションでは、ユジノサハリンスク市で日本料理店を営む宮西豊氏から、「雪中米」について「甘みがあっておいしい、ロシア人にもきっと受け入れられる」との話もあり、海外販路拡大に向けた意見交換などが行われました。



▲寺島さんの講演(上)とパネルディスカッション(下)

沼田の魅力を発信 北海道フードビジネス・現地視察ツアー 10/23



▲北のほたるファクトリーでの説明

10月23日(木)、北海道、北海道企業誘致推進会議が主催し、北海道フードビジネス・現地視察ツアーが開催されました。このツアーは良質な北海道産原料の産地や、産地に立地する食関連工場などの視察、生産者など地域の関係者との情報交換を目的に実施されました。

道内の十数の自治体が手を挙げた中から、沼田町、北見市、滝川市の3自治体選ばれ、道外から約30社の食品関連の会社に参加しました。

沼田町では農業関連施設の北のほたるファクトリー(農産加工場)、スノークールライスファクトリーの2か所の視察を行い、現地で雪を使った利点や市場での取引などについて意見交換が行われました。また、北のほたるファクトリーではトマトジュースやトマトケチャップの試食も行われ、参加者からは「濃厚で飲みやすい、市販されているメーカーの物とは違う」といった感想が聞かれ、視察後に購入される方もいました。

7つのテーマに分かれて 第3回つながる塾を開催 10/27

さいごまで自分らしく健康で幸せに暮らすために、沼田町にはどんな場所やサービスがあったらいいか。また、それらを実現するためにどんなことができるのか。これらについては話し合う場として第3回目となる「つながる塾」が10月27日(月)に開催されました。

前回の振り返りの後、カフェ・食堂づくり、学びの場づくり、空き家・空き店舗活用など、7つのテーマに分かれて5年後10年後に実現したい目標を思い描き、それに向かって今何をすべきか、勉強会を行いました。

テーマごとに4名、5名で世代や職業など様々なメンバーが話し合い、それぞれ発表を行いました。今回行われた「つながる塾」の詳細は、次回発行のこれから通信をご覧ください。



▲それぞれのテーマで発表を行いました



素晴らしい発表にうっとり 町民芸術祭で芸能発表 ^{11/3}

11月3日(月)、町民会館において、町民芸術祭(同実行委員会主催)が開催されました。芸能発表会には延べ約180名の皆さんが出演し、第一部では小学校スクールバンドや中学校吹奏楽部、ぬまた吹ガールズの吹奏楽演奏のほか、新たなサークルのフラダンスや明日萌の里フォトコンテストの表彰式が行われました。

第二部では二胡(にこ)や箏、ピアノ、オルガン、大正琴、太鼓の演奏やおわらや創作舞踊、剣詩舞、ヒップホップなどの踊りのほか、詩吟やコーラス、独唱、民謡などの歌声も披露され、終日たくさんの皆さんが会場を訪れていました。



▲写真撮影：沼田写真クラブ若林祐治氏

秋の味覚を堪能 まちなか賑わい夕市 ^{10/31}



▲たくさんのお客さんで賑わいました

10月31日(金)、まちなかにぎわい夕市が、本通3丁目の昭和プラス横の会場で行われました。今年3回目となる夕市は、野菜の販売やおなじみとなったコストコ市に加え、かぼちゃぜんざい、新米で作ったおにぎりや、農産加工場と提携している株式会社コーミのソースを使用した焼きそばが無料で振舞われました。

また新米量りゲームも行われ、1.4kgから1.6kgを目指して袋に移し、範囲内であればそのまま持って帰られるとあって、長蛇の列ができていました。

訪れた人達は、お目当ての商品を購入したり、新米やカボチャといった秋の味覚を堪能していました。

交通事故死ゼロ1,000日を目指して 交通安全町民大会を開催 ^{11/5}



▲白バイの展示も行われました

11月5日(水)、交通事故死ゼロを目指して、沼田町交通安全大会が町民会館で開催されました。

町民大会の開催前に、会場ではシートベルトの効果を経験できるシートベルトコンビサーや、子ども免許証の発行、反射板効果体験、パトカーや白バイの展示も行われ、たくさんの子どもたちが白バイに乗ったり、用意された体験を楽しんでいました。

講堂で行われた交通安全町民大会では、交通安全標語、高齢者川柳の表彰、交通安全を願う講演会が行われました。講演会では、北海道交通事故被害者の会代表の前田敏章さんが、自身が体験した癒えることのない事故の痛みを、スクリーンを使って話しされました。

楽しく予防 共成老人クラブで介護予防普及啓発事業 ^{11/10}

11月10日(月)、共成老人クラブの会員の方を対象に共成活性化センターで、介護予防普及啓発事業が行われました。

この日は町保健福祉課の生田管理栄養士から日頃の食生活で気をつけたいことや、昨年実施した食生活アンケートの結果等についての栄養健康教室が行われ、松野健康運動指導士からロコモティブシンドローム(※1)の予防法などについて運動教室が行われました。



▲沼田のケチャップを使った料理も作りました

また、生田管理栄養士と参加者が一緒に、沼田産のケチャップを使った昼食を調理して、参加者で楽しく食事を行いました。

※1ロコモティブシンドローム：和名は運動器症候群といい、主に加齢による運動器の障害のために移動能力の低下をきたした状態のことを指します。

人権の花運動に感謝 沼田小学校・中学校に感謝状^{11/12}



▲両校に感謝状を渡す辻委員



11月12日(水)、沼田小学校と中学校に人権擁護委員の3名が人権の花運動の活動に対して感謝状を贈呈しました。

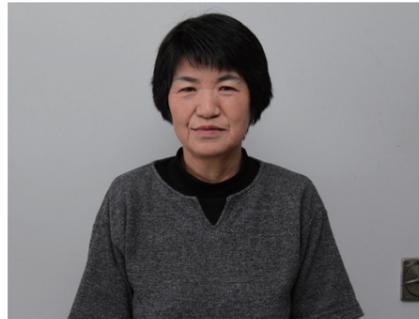
感謝状を贈呈した辻委員は「花の手入れを通じて命の大切さ、協力しながら育成することを通して、協力、感謝することの大切さを学んでくれたと思います。友達と接する時も花への思いやりを思い出してください。」と挨拶し感謝状を手渡していました。

自分の権利を知ってください

人権擁護委員に3名を委嘱

人権擁護委員としてご活躍頂いた平木恵子さん(南町)と横山哲夫さん(共成)がこのほど任期を迎えられ、新たに3名の方が法務大臣から委嘱されました。

今回委嘱されたのは辻広治さん(沼田3)、徳盛透さん(仲町東)、渡部順子さん(市内2)の3名です。人権擁護委員は、国民の日常生活の中で人権尊重思想の普及高揚を図るとともに、人権侵害による被害者を救済し、人権を擁護していくという考えから設けられたもので、沼田町を中心に活動していきます。



▲今回委嘱された左から辻広治さん、特盛透さん、渡部順子さん

ご寄付



▲寄付を手渡す工藤さん

平成26年度ふるさとづくり寄付金の状況(11/10現在)

事業の種類	寄付金額
ほたるの里維持保存及び整備事業	1,240,000円
夜高あんどん祭り維持・保存事業	197,500円
雪エネルギー活用・普及及び研究事業	1,152,000円
化石河床群の保存・研究事業	240,000円
豊かな自然景観と環境の保全事業	1,376,500円
町長お任せコース(町長が用途を決定します)	7,102,000円
合計	11,308,000円

沼田町の発展のために

10月17日(金)、工藤繁勝さん(高穂2)が町長室を訪れ、町に対し200万円のご寄付をいただきました。

工藤さんは「開拓120年を迎える町に何か恩返しがあればと思い、寄付させていただいた」と町長に話されていました。

NHK子ども音楽クラブ N響が沼田小学校にやってきた^{11/12}

11月12日(水)、沼田小学校(藤森正男校長)において「NHK子ども音楽クラブ」が開催されました。この事業はNHK旭川放送局とMHK交響楽団の主催で沼田町の120年を記念して行われたものです。

会場となった体育館には小中学生のほか教員や保護者、一般町民など約300名が集まり、開演に先立ち藤森校長から「今年は沼田町の120歳の年。素晴らしい音楽を聴いて、しっかりと楽しんで、感動してほしい。」と挨拶がありました。

演奏はN響から弦楽四重奏として4名のメンバーが来町され、馴染みの深いクラシック音楽や「アナと雪の女王」の主題曲のほか、それぞれの楽器の紹介などもありました。また、小学校スクールバンドと中学校吹奏楽部との共演や、N響の演奏により両校児童生徒がビリーブを元気に美しく歌いました。最後には、サプライズとして両校の校歌演奏があり、児童会長の伊藤君と生徒会長の久保さんから感謝の言葉が贈られました。

